

カラス カン ナ ガワ



ラスカー君

鳥・神流川だより



国土交通省 高崎河川国道事務所

カンナちゃん

第29号 H16.3

「元気で戻っておいで」サケの稚魚たち」

サケの稚魚放流及び河川清掃

去る3月6日(土)和田橋下の河川敷において、サケの稚魚放流及び河川清掃が行われました。

今年で17回目を迎えるこの放流は、生命の尊さに理解を深めてもらうとともに、河川愛護思想の啓発を目的に高崎青年会議所のメンバーらが結成した「ぼくらのサケを育てる会」が中心となり実施しているものです。

雪まじりの雨が上がり、北風が吹く厳しい寒さにもかかわらず、会場は親子連れでいっぱいでした。



稚魚を放流している子供



挨拶をする副所長

当事務所においても昨年12月8日に150粒の卵をもらい受けて里親となり、約3ヶ月間にわたり大事にサケの稚魚を育ててきました。当日は、放流前のサケの体長を測ってもらいましたが、約4.7cm～5cmのものが、120匹程で感謝状をいただきました。

放流前に行われた「サケの稚魚放流記念式典」では、当事務所の佐藤副所長ほか来賓の方々の挨拶に始まり、サケの作文コンテスト優秀作品の表彰、



サケの稚魚を放流する参加者

サケは、3～4年後、再び生まれた川を目指して帰ってきます。

昨年は、県内の利根川で1000匹以上のサケの遡上が確認されたそうです。烏川まで戻ってくることは非常に稀ですが、楽しみにしていきたいと思います。

放流後は、河川愛護思想の啓発の一環として、参加者による河川清掃が行われ、各自、ゴミ袋をいっぱいにして戻ってきました。



ゴミ拾いをする参加者

最後に、多くの人達が参加するこの行事が「自然を大切に」また「川をきれいに」という、地域への発信となっていくことを期待しております。

なお、サケの稚魚の飼育に関する感想文集の応募作品、及びサケの一生、サケ稚魚飼育観察日記、新聞記事等を「川と道の情報館」に展示してありますので、是非ご来館下さい。

サイズコンテストの結果発表、表彰、優秀作品の朗読等が行われました。

式典の後、各学校、家庭で大事に育てられたサケの稚魚たちが、一斉に川に放流されました。子供達は、「早く大きくなれよ」「元気で戻ってきてね」等と声をかけながら、いつまでも名残惜しそうに行方をおっていました。当事務所のサケは、小粒でしたが非常に元気が良く、スイスイと一斉に泳いでいきました。「大きくなって戻ってくるといいですね」

発行・問い合わせ先

国土交通省 高崎河川国道事務所 河川管理課

〒370-0841 高崎市栄町6-41

TEL027-345-6041 FAX027-345-6091